

平成 30 年度小田原市酒匂小学校内装木質化改修基本設計・実施設計 事業者選定プロポーサル審査結果

小田原市では、酒匂小学校内装木質化の基本・実施設計業務の実施にあたり、今後の本市の木材利用による教育環境改善効果、地域産木材の普及啓発効果、地域と学校との関わり方や施設の有効利用など様々な条件を有する事業であることから、柔軟かつ高度な発想力及び豊富な経験や能力をもつ優れた設計者を、公募型プロポーザルによって選定することとした。

選定にあたっては、小田原市立小学校内装木質化改修基本設計・実施設計業務プロポーサル審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置し、公平・公正な審査を行った。その結果、次のとおり優先交渉権者及び次点者を選定したので公表する。

1 審査結果

- (1) 優先交渉権者 株式会社みかんぐみ
- (2) 次点者 株式会社現代計画研究所
- (3) 上記以外 株式会社アラキ・ササキアーキテクト
喜多裕建築設計事務所・木内建築計画事務所・福山弘構造デザイン共同事業体

2 審査経過

(1) 審査経過

ア 書類審査（平成30年12月13日）

10者から参加資格確認申請書の提出があり、当該申請書の内容について書類審査を実施し、実施要綱に違反のないことを確認した上で、匿名で提案の実現性、設計者としての信頼性及び工事価格に係るマネジメントのあり方を総合的に評価した結果、2次審査に参加できる4者を選定した。

イ プレゼンテーション審査（平成30年12月19日）

1次審査を通過した4者の提案書の内容について、個別にプレゼンテーション（20分）及びヒアリング（20分）を実施した。

技術提案書等の内容、プレゼンテーション及びヒアリングの応答をもとに、審査委員会が審査基準に基づき中立かつ公正に審査及び評価を行った結果、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として選定し、当該技術提案に次ぐ優れた提案を行った者を次点者として上記のとおり決定した。

(2) 審査委員会委員長

座間 亮（小田原市経済部長）

(3) 審査委員会アドバイザー

長澤 悟（東洋大学名誉教授）

3 審査講評

本事業は、今後の小学校における効率的な木材利用やそれに伴う教室などの学校施設の配置や機能の見直しによって、教育環境の改善や地域コミュニティのさらなる発展を促し、その結果として、小田原の森林・林業・木材産業活性化への寄与といった幅広い課題について限られた事業費の中で、最大限の効果を期待するという難易度の高いものである。

優先交渉権者に選定された「株式会社みかんぐみ」は、木にくるまれた空間をイメージして、木材が本来もつ柔らかな雰囲気をよく生かそうとしており、現状の学校活動を十分に理解した上、「酒匂小らしさ」を追求し、短い設計スケジュールの中で子どもたちとのワークショップを含め学校関係者等との集中的な協議の実施を示しているなど、総合的に優れていることが高く評価された。

惜しくも次点に選定された「株式会社現代計画研究所」は、今年度の東富水小学校の内装木質化の設計監修事業者であったことから、本事業の趣旨をよく理解し、現実的かつ実現可能な提案であった。新たな「酒匂小らしさ」の考え方、児童や関係者を巻き込んだ事業の進め方についての提案がやや弱かった。

「株式会社アラキ・ササキアーキテクト」は、既存施設の室の再配置を積極的に考え、また、木の使い方のアイデアに関して多様な提案が行われていた。施工コストやスケジュールについて疑問が残り、提案の実現性についてやや懸念された。

「喜多裕建築設計事務所・木内建築計画事務所・福山弘構造デザイン共同事業体」の提案は施設の室の再配置に重きを置き、今後の学校と地域における関係性のあるべき姿の一つを提示している点は評価された。現状の酒匂小学校の問題点や柔軟な対応についてやや物足りない印象であった。

今回応募された各者には、今後の小田原市における学校木質化について多面的な観点から貴重な提案をいただいた。多様で広範囲に及ぶテーマに対して、非常に厳しいスケジュールにもかかわらず、本市の地域特性や課題を的確に捉え、柔軟かつ高度な発想による技術提案をいただいたことに、審査委員会委員長として深くお礼を申し上げます。

平成30年12月20日

小田原市審査委員会委員長

座間 亮